

ほとこらせ

2023年8月23日発行:北海道重症心身障害児(者)を守る会在宅部会(略称-守る会) 第83号

こどもたちとのかけがえのない日々に

重度障がい児支援 花色
代表 斉藤 由紀

6年前、私は花色(重症心身障がい児と医療的ケア児の通所施設)を開設するにあたり、こども達に何を伝えられるのだろうかと考えました。まず抱っこをして五感にうったえ、体で感じられる遊びをしたいと思います。

この6年格好悪い所を見せながらも、こども達と保護者様に花色も私も育てて頂いたと改めて振り返ります。

そして今、わたし達はこども達を抱きしめ、歌をうたい、トンボの力強い羽ばたきや、海の生き物のこと、かき氷や季節のことを、手を握り、背中をトントン叩きながら話し、見せ、触って感じてもらっています。

花色での療育活動は、保育士他多職種でサポートしながら行っております。活動を体験し認識を深めて、生きるための“総合する力”を高めてもらいたいと考えています。

今の社会は情報も果てしなく、どんな物も容易に手に入れます。「もっと、もっと」と欲は増えますが、人間が生きるという事は物欲を満たす事よりも、自分の身体や心が心地よい状態を探し、感受性を育む事の方が大事ではないかと私は考えております。豊かな国で生きているからこそ忘れがちな事です。

～例えば、見た事が無くても物語の世界を想像する事ができ、その世界が晴れたり、曇ったりする日を思い浮かべる事ができる。そんなイメージのバリエーションを増やしてもらいたいと思いながら携わっております。

そして、ご近所さんとの交流はこども達の刺激になっています。沢山の人の人に出会い実体験をして、ワクワクドキドキする気持ちも肉付けされて、想像力に結び付いて欲しいと願います。

2015年から世界が目標としている【トランスフォーム】で、人類が安定してこの世界で暮らし続けるためのSDGsには、一人ひとりの生存や尊厳を大切に「誰ひとり取り残されないこと。」社会の中で守られるべき子ども達の存在と、一つひとつの家庭の大切さを掲げております。自分や家族を大切に、地域と共に助け合って生きて欲しいです。

あるお医者様が言っていました。「毎日、新しい一日を生きていること。たくさんの支えがあって生き延びてこれた事を実感することができていますか?」と。これは、私達もこども達も同じです。

“何となく”と、流して過ごすのではなく、自身の力を育てる事の大切さに向き合い成長できるように支援したいと考えます。

～今日、空を見ましたか。浮かんでいた雲は、どんな形をしていましたか。カバになったり、魚になったりするような感性を忘れていませんか。

この先も、必死になったり笑ったりしながら私達はこども達と共に歩み続けたいと思います。

～この笑顔、やさしい時代の風となれ～